



水谷隼さんと エネルギーのことを考えよう!

開催レポート

静岡県御前崎市でエネルギーセミナーを開催しました。
セミナーには約200名(会場:約150名、オンライン:約50名)の参加がありました。
当日の様子をご紹介します。

日時 2022年3月26日(土) 14:00~15:40

場所 御前崎市民会館ホール



第一部 14:00~14:45

水谷隼さん トークショー

水谷 隼 氏

[東京2020オリンピック 卓球混合ダブルス金メダリスト]



長谷川 玲子

[MC]



東京オリンピックでいっしょに戦った伊藤美誠選手は、彼女が5歳頃から知っているのだから気が知れた良いペアでした。伊藤選手ののびのびとした卓球を引き出すのは、僕の役目。準々決勝のドイツ戦で2-9で負けている状況がありました、この大差を逆転で勝ったことは今まで経験したことがなく、「1本ずつ点を取り、最後まであきらめるな」と彼女に言っていたし、自分にも言いきかせていました。その準々決勝に勝利し、その勢いで優勝しましたが、あれは自分たちの実力、何らかの力が加わったと思っています。

僕はメンタルが強いと言われていますが、昔はそうではありませんでした。勝利して強くなるに従って、精神的に落ち着いてきました。卓球は選手間の距離が近いので、相手の行動、攻め方、考え方を読み取ることが必要です。

今、卓球という大好きなことで仕事ができるのは素晴らしいことだと思っています。中高校生の年代でドイツ留学はたいへんでしたが、その経験により夢が叶えられたので、自分の歩んだ道は間違いではなかったと思っています。

32年間、卓球に全てを託し、東京オリンピックでも優勝できました。未来を担う子供たちには、何か一つで良いので、スポーツに打ち込んでほしい。ちなみに卓球は生涯スポーツであり、高齢の方にも楽しんでほしいと思っています。



水谷隼さんと エネルギーのことを考えよう!



第二部 14:50~15:40

エネルギートークラリー 水谷隼さんと エネルギーのことを 考えよう!

【解説】

金田 武司 氏

【(株)ユニバーサルエネルギー研究所代表取締役 社長】

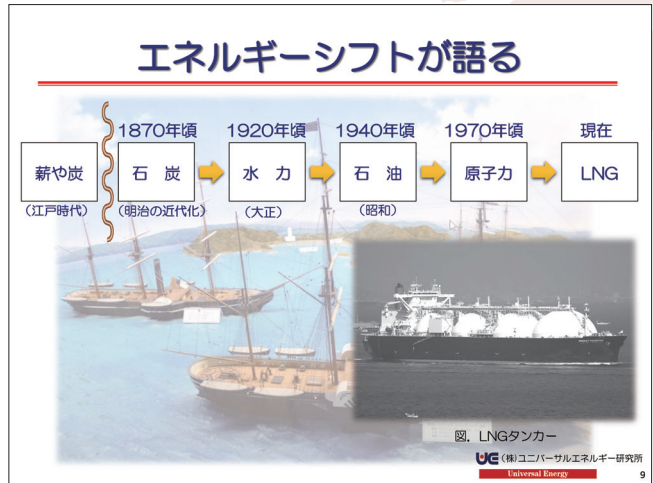


日本の元号はエネルギーの変遷と密接な関係にあります。大正は水力発電の時代、昭和は石油とともに始まり、石油とともに幕を閉じたと言われています。

日本はオイルショックにより「自給」の必要性を感じ、国はエネルギー自給率を向上させるために、石油からの脱却を図る目的で「省エネ」によりエネルギーを大切に使うことを奨励。さらに、「原子力」により電力の安定供給を目指し、自給のために「新エネ」の開発に力を入れました。

水谷さんは、卓球でいろいろなタイプの選手と戦うとき、最悪の事態を考え、練習などにより対策を立て、少しずつ問題点を消去していくとおっしゃいました。

エネルギーの世界も同様なことが言えると思います。日本のエネルギーの特殊性として、海に囲まれているため、他国とエネルギーインフラが一切つながっていないこと、エネルギー資源がほとんどないことが挙げられます。このような特殊性を踏まえ、これらから今後のエネルギー政策を考えていく必要があります。





水谷隼さんと エネルギーのことを考えよう!

温室効果ガス削減の高まりから石炭への逆風が吹いています。新エネルギーは海外メーカーの力が強く、衰退しています。LNGだけが頼みですが、供給には不安があります。

原子力発電所1基(出力100万kW、稼働率80%)と国内の全ての風力発電の設備(420万kW、稼働率20%)を比べると、CO₂削減効果はほぼ同じで、稼働率がとても重要です。

コロナ禍で見えてきたものは、医療、食料、エネルギー分野も最低限の自給・自立が重要であることです。

日本はこれまで独自の技術力により、多くの苦難を乗り越えてきました。今後どのように乗り越えていくかが重要であり、皆さんもエネルギーのことを自分事として捉えていただきたいと思います。

原子力発電所1基の再稼働は?

- 原子力発電所の出力1基100万kW (稼働率80%)
- 国内にあるすべての風力発電所の出力 (累計) 420万kW (稼働率20%)



問 さて、どちらの方がCO₂削減効果が高いでしょう

① 原子力

② 風力

③ ほぼ同じ

答え③ ほぼ同じ

- 100万kW×0.8=80万kW (原子力)
- 420万kW×0.2=84万kW (風力)

(出典：資源エネルギー庁2020年9月)

UE 株式会社ユニバーサルエネルギー研究所
Universal Energy

これからを考える (まとめ)

- 自給できない日本の現状 (自給率・選択肢)
- エネルギーミックスの歴史
- 安全・安心 (セキュリティ) を考える
- 経済対策としての重要性

日本固有の課題

UE 株式会社ユニバーサルエネルギー研究所
Universal Energy

27

参加者の声



● 日本のエネルギーの大部分が輸入に頼っていることと、そのパイプが船しかないということを知りました。命がけで船で輸入していることにビックリしました。

● 国債がオイルショックから始まったことは知りませんでした。資源のない日本の現状は深刻だと思っています。

● 日本のエネルギーの歴史・変遷は、海外からの調達の歴史とともに進んでいっているのだなと思いました。これからはなるべく海外に頼らないエネルギーにしていかなければならないなと思いました。

● 日本に資源がほぼ無いというのは非常におどろきでした。すごく危機感を持ちました。だからこそ我々にできることを考えていかなければならないわけですね。とてもためになるセミナーでした。

● ロシアとウクライナの戦争、3月16日の地震など、最近の状況も踏まえながらの話もあり、身近に感じることができました。自分はどのように?と自分事として考えたいと思います。